



10年ぶりのカンボジア(その1)

山本忠文

1. はじめに

今年は、「日本地雷処理を支援する会」(JMAS)カンボジア代表の勤務を終えてから10年目の節目を迎えました。元気な内にカンボジアを再訪したいと考え今回の旅行を計画しました。

目的は以下の通りです。

- ① 一緒に勤務したカンボジアスタッフとの再会
- ② 当時の最前任カンボジアスタッフで3年前に病気で他界したボレット氏の墓参り
- ③ その後のプノンペンの開発・発展の確認
- ④ JMAS 現地事務所の訪問
- ⑤ 国道1号線に日本(JICA)の支援で建設された橋の確認

昔はプノンペン(以下PNPと省略)に行く直行便がなく、タイのバンコック或いはベトナムのホーチミン等を経由して行かなければならず10時間余りかかっていましたが、今は直行便で成田~PNP間が約5時間と大変便利になりました。

9月22日(土)から30日(日)までの1週間余の旅でしたが殆どPNPで行動し上記の目的を十二分に達成することができました。

帰りは、台風24号日本列島を直撃との予報があり心配しましたが、飛行中の揺れも大したことはなく30日の朝30分遅れで無事成田に到着しました。鉄道便も一日ずれると危なかったのですが、順調に運行しており予定通り帰宅いたしました。

尚、出発前に久々に使うデジカメの機能点検は実施したのですが、残容量の確認を怠り2~3枚で撮ったところでメモリが一杯だと気づかされましたが後の祭りでした。

そのため、スマホで撮影しましたのでお粗末な写真となったこととお詫びいたします。

2. PNP 到着と元スタッフとの再会

PNP 国際空港に予定通り15:40(現地時間、時差2時間)に到着し最初の手続きはビザの申請です。ビザは出発前に日本で申請する方法、ネットでe-ビザを取る方法、到着後空港で申請する方法の三つがありますが、到着後の申請が30ドルと最も安く簡単です。多くの方がこの方法をとっているため15分程度待たされました。

荷物を受け居り、到着ロビーに出ると「Daihyou!」と大きな声で呼ぶのが聞こえ声の方向を見ると二人に懐かしい顔が迎えてくれました。一人はJMAS・PNPの現在の最前任スタッフでプロジェクトマネージャーのボラさん、もう一人は当時のドライバーで現在もドライバーをやっているソフィー君でした。因みに「Daihyou」とは現地代表のことですが、「YAMAMOTO」はカンボジア人には発音が難しいようで当時も今も「Daihyou」と呼ばれます。ホテルまでの移動はトヨタのレクサスで、これはボラさんの私物です、運転は当時と同様にソフィー君がやってくれました。

18時に再びホテルに迎えに来てくれるとのことで、チェックインを済ませて旅装を解き、シャワーを浴びて出発の準備です。ホテルは、日本で booking.com を使ってネット予約をしましたが、思っていた通り又はそれ以上で正解でした。プール付きで部屋もダブルベッドの十分な広さがあり、ビュッフェスタイルの朝食込みで一泊 40 ドルとリーズナブルな価格でした。



18 時前にロビーに降りると既に二人が待っていてくれました。時間にルーズなカンボジア人にしては中々のものだと見直しました。(それほど小生に気を使ってくれていることに感謝！)

最初の再会を祝するため彼らが案内してくれたのは PNP 郊外のビアガーデンです。昔は、ビアガーデンは PNP の中心地に数多くあったのですが、開発に伴い行政指導で郊外に押しやられたようです。ビアガーデンは、ビールは勿論ですが、各種料理、生バンドの音楽演奏と歌(一寸うるさ過ぎますが)が付き、女性のもてなしもあります。但し殆どの女性はクメール語のみで英語は片言程度ですので、コミュニケーションするには英語のわかるカンボジア人のサポートが不可欠です。(勿論ボディランゲージは OK です)

ビアガーデンは日本と違い基本的にオープンエアです。カンボジアは暑さが厳しく且つエアコンが十分ではないためオープンエアにして扇風機で涼をとるのです。歓談中に雨が降り出しましたが、青天井で濡れるのではと危惧しましたが、突然スライド式の天井が現れて安心するとともに中々のアイデアと感心した次第です。

今回の訪問で気が付いたことの一つに従来は汚く、不衛生であった環境が随分改善されていることがあります。ビアガーデンでトイレを利用しましたが、昔は悪臭が漂い極めて不衛生であったのですが清掃が行き届いており、清潔に維持され気持ちよく使えました。更にはトイレの清掃スタッフが常駐しており、彼が小用中に肩をもむサービスをしてくれました。1ドルのチップをあげたら、2回目も小生を目ざとく見つけてサービスをしてくれましたが悪い癖になると思いノーチップで済ました。

懐かしいカンボジア料理を楽しみながら旧交を温め合いましたが、楽しい時間はあっ

いう間に経過し気が付くと 11 時を過ぎていました。翌日の予定があるので初日はこれで切り上げです。

3. 故ボレット氏の墓参—タケオへ

故ボレット氏は、私が JMAS カンボジア代表当時に不発弾関連のプロジェクト マネージャーやってくれカンボジア人スタッフの最先任で、発足当時からベテランでした。4 年前に永年勤務の慰労を兼ねて本部に招待され東京に参りました。

その折は小生と再会を果たし痛飲したのが思い出されます。今回聞いた話では、その時既に体調を損ねており薬を飲みつつ行動していたとのこと。それをおくびにも出さず健気にふるまっていたと思うと胸が痛みます。

東京訪問の 1 年後に他界されましたが、病名を聞いても胸や腰が痛かったとのことではっきりと判らなかつたようです、これがカンボジアの医療レベルなのでしょうが？

ボラさんは同じく地雷関連のプロジェクト マネージャーでボレット氏の弟です。現在、ボレット氏が亡くなってからは地雷、不発弾の両方のマネージャーをやっています。

23 日（日）の朝 10 時にボラさんが、奥様、お嬢様とともに車でホテルに迎えに来てくれました。ボレット氏の墓は故郷のタケオにあります。

タケオは初めて自衛隊が PKO 活動に参加したときの活動拠点（駐屯地）があった場所です。記憶されている方も多と思います。

PNP からは車で約 2.5 時間の行程ですが、途中墓前に供える果物等を購入しましたので、到着したのは午後 1 時頃でした。

墓は彼の一番上のお姉様に家（彼の実家ですが、両親は高齢のためボラさんとともに PNP 住まい）の直ぐそばにあるパゴダ（寺院）の中に設けられております。当日は、小生がわざわざ日本から墓参に来るということで多くの親類縁者が集まりとても賑やかな集まりとなりました。

カンボジアの墓は、三角屋根の小さな小屋のようになっており、中に祭壇があり位牌、遺影、蠟燭立て、線香立て、供物等が置いてあり、2～3 人が同時にお参りできるスペースがあります。日本の仏壇と比べると相当大きな感じがします。懐かしいボレット氏の真新しい遺影が飾られており、4 年ぶりの再会を果たしご冥福をお祈りし、気にかかっていたことをやっとなり遂げた思いでした。

YouTube でカンボジアの僧侶が読経しているのがありましたので、墓前でお経をと思い事前に準備をしていたのですが、タケオの田舎ではインターネット接続がうまくゆかず断念いたしました。

お参りの後、全員？で集合写真を撮りましたがタオルで鼻を押さえて横を向いている老人が彼の父親です。元学校の教師で 72 歳ということですが足が悪く歩行が不自由で、やや認知症気味で合掌するだけで通常の会話を交わすことができませんでした。カンボジアの高齢者の全てではありませんが、我々よりも弱っている感じです。因みに平均余命

を聞いてみると、最近向上しつつあり現在は70歳位とのことでした。

その後は、恒例の全員による会食です。色々なクメール料理でもてなしていただき、勿論ビールもふるまわれました。クメール料理という独特のジャンルは、然程多くはなく殆どは中華料理、タイ料理、ベトナム料理をミックスした様なものです。調理法は炒め物、煮物、スープ類等がありますがサラダ、生の魚、肉は環境的に無理です。料理の下には香草類が敷かれておりこれが食欲をそそります。食材は豊富で、肉類では牛、豚、鶏、アヒルの他水牛も良く出てきます。水牛は硬くて噛むのに苦労しますがゆっくり噛めば味はそこそこにいけます。

魚介類は川魚が主体ですが、何故かサバが人気で彼らもサバと呼んでいます。ウナギも良く使われますが、かば焼きの様な手の込んだ調理はカンボジア人には無理なようで、ぶつ切りにして野菜と炒めたもの、煮たものが主流です。ウナギは川でいくらでも取れ、稚魚が激減し問題となっている日本から見ると羨ましい限りです。



念願の墓参りを果たし、親族との昼食会を存分に楽しんだ後、タケオを後にしてPNPに向かう帰路につきました。

PNP に近づくと 19 年前とは違い高い建築物が多く目につきました。聞いてみるとその殆どが高層の集合住宅とのこと。所謂タワーマンション、高級高層 condominium といったものが続々と建設されておりカンボジアとりわけ PNP の急速な発展ぶりを象徴しています。

建設会社の多くは中国からの支援を受けたカンボジアの会社だそうですが、実際の建設作業には多くの中国人労働者が携わっておりカンボジアの雇用創出には繋がっていないようです。

日本では、マンション等は完成後の発売するのが普通ですが、カンボジアでは建設前に販売を開始し集まって金を建設資金に充てていると聞きました。カンボジアの一部の裕福層や外国人特に中国人が購入しており、単なる居住用ではなく不動産投資の思惑もあるようです。どこかの国のように近い将来バブルが到来し、やがて崩壊することが危惧されます。



PNP に帰着後、シャワーを浴びしばし休息をしていると、6 時頃に元ドライバーのソフィー君がホテルにバイクで迎えに来ました。その夜は、ボラさんの自宅で小生の歓迎パーティーを開催してくれるとのことでソフィー君も仲間入りです。ボラさんの家は PNP 郊外にあり、テラスハウス様式で彼の家、両親の家、奥さんの兄弟の家が 3 軒繋がりになっており、その家の前で広い庭でガーデンパーティーが開かれました。このパーティーにも、近くに住む彼及び奥様の親類縁者が集まり 20 人以上の大パーティーとなりました。

子供たちも一緒に加わり中には、気を利かしてバーベキューの調理を手伝いテーブルまで運んでくれる子供もいました。カンボジアでは子供たちも結構な戦力として重宝しているのを良く見かけますが、自主的に働いているのを見るのは初めてでしたので、こっそりと小遣いをあげておきました。

朝からの長距離移動、墓参り、昼食会、歓迎会と忙しい中にも楽しく充実した一日でした。

4. プノンペン市内の開発・発展状況

(1) 概要

3日目(24日)は月曜日でしたが日本同様にカンボジアも休日でしたので、ソフィー君が終日 PNP 市内をバイクで案内してくれました。

最初に案内してくれたのは、PNP 北部の「カムコ・シティ」という韓国資本が開発中にニュータウンです。この開発は10年前にはすでに始まっておりましたが、このプロジェクトのメインバンクである銀行の役員が不正融資で逮捕され途中で開発が中止していました。その後、韓国政府、カンボジア政府の尽力でこれが再開されたそうです。

ビラタイプの戸建て住宅が最初に建設され全戸が入居済みの様です、現在は中層のコンドミニアムも殆ど完成しています。団地内はいくつかの区画に区分されており夫々にゲートが設けられ警備員が常駐しておりセキュリティが確保されている様子にカンボジアらしさ感じました。

その後はカンボジアの政経の中心部を案内してもらいました。首相官邸は昔のものを取り壊しすっかり新しいものに替わっており外観はとても立派に見えました。それに隣接して内閣府の建築物も新設されていました。国会議事堂はこれらから500m程離れた位置にクメール様式の風格ある建造物です。国政の運営がそれらに相応しいかどうかは疑問のあるところですが・・・。何れの建物も英語の表記はなくクメール語のみだったのも気にかかりました。

フンセン首相の邸宅は独立記念塔を近くに臨む PNP の1等地にあり、まさしく豪邸と呼べるものですが、写真撮影は厳禁とのことで残念ながら撮影を諦めました。



「次はどこに行きたいですか？」と聞かれましたので、PNP で最も高い建物に連れて行ってと頼みました。それは42階の高層建築で「ゴールドタワー42」と呼ばれ、未だ完成してはませんが外観はほぼ出来上がっている感じでした。来年には133階建ての超高層ビルの建設開始が予定されているそうです。この様な高層建築が林立しつつあるPNPですがそのほぼ全てが所謂高級コンドミニアムであり、果たしてこれだけの需要があるのかどうか疑問を感じつつ見学を終えました。



PNP では買い物は、プサーと呼ばれる市場若しくは近くの雑貨屋するのが殆どで、大きな買い物は一番大きいといわれるセントラルマーケットやバイオン、ラッキー等のスーパーマーケットに出かけるのが通常でした。ところが4年前にイオンモールが進出して大きな変化をもたらしました。

近年のカンボジア特にPNPの交通状況は、他の開発途上国と同様に悪化の一途をたどっており大きな社会問題化しておりますが有効な打つ手がないというのが本当のところでは。

これら2点については、別途項目を改めて報告します。

(2) 二つのイオンモールの進出

イオンモール1号店は、2014年6月30日に正式オープンしたそうです。開店記念式典にはフンセン首相や同国を訪問中の岸田文雄外相も出席したとのこと。

スーパー「イオンノンペン店」を核として、約 190 店舗の専門店、国内最大のシネマコンプレックス、スケートリンク、約 1,200 席を擁するカンボジア最大のワールドフードコートやレストラン、ヘアーサロン、リラクゼーション施設、アフタースクール（ダンス、料理、英語、キッズジムなど）などで構成されており、カンボジアで最大規模の地上 4 階建てのショッピングモールです。

専門店には、日本のワコー、和民、ノジマ、ダイソー、DHC、YAMAHA などお馴染みのお店も出店しています。100 円ショップのダイソーの価格設定は、1.9 ドルと日本より高いのが面白いところです。

中に入った感じは、まさに「日本がそこにある」で日本のものは勿論のこと世界中の品物が溢れている感じで、ひょっとすると日本のイオンより充実しているかもしれません。

価格は、他のスーパーよりも若干高いそうですがエアコンのきいた清潔な建物・施設で国際水準のものが手に入ると大人気だそうです。金のない人も、見て回るだけでも目の保養になると子供連れで楽しんでいます。

カンボジアは果物の宝庫で、トロピカルなフルーツは安いのですがリンゴや梨などの輸入物は日本よりも随分高めです。

昼食は、イートインのフードコートがあったので、そこで摂ることにしました。寿司があるのを見つけ、ソフィー君が寿司を食べたことがないというので寿司とフライドチキンを購入しました。寿司の中身は、サーモンと赤身のマグロの 2 種類ですがボリュームは充分でした。因みに価格は 5.9 ドルと格安でした。

トイレも清潔で手洗い後の乾燥機もついていますが、エアブローが弱いのが残念でした。シャワートイレはどうかと確認しましたが、残念ながら設置されていませんでした。カンボジア人はメンテナンスの概念が乏しいので、設置しても直ぐに壊して放置する恐れがあるからかも知れません。

ソフィー君と店内の小洒落たカフェで休憩歓談した後、夕食(飲み)に出かけました。

2 号店も今年の 5 月にオープンしましたが、1 号店とほぼ同様の構成です。こちらも連日大盛況の様です。





(3) プノンペンの交通事情

カンボジアでは、首都プノンペンであっても市内の移動手段は車、バイク、自転車がメインとなっており、公共交通機関が殆どありません。

自家用車や自家用バイク・自転車を持たない人々は、日常的にタクシー、トゥクトゥク（三輪タクシー）、バイクタクシー等で移動することになります。

これらの移動手段は、基本的に出発地から目的地までのドアツードア移動ですので、その点ではストレスフリーともいえます。

一方、日常的に起こる交通渋滞や交通事故は関係者の頭痛の種です。経済成長とともに都市部の人口・車両が増え続ける中、渋滞はますますひどくなっていくことが予想されます。先程、公共交通機関が“殆ど”ないと書いたのですが、実はプノンペン市内には既に公共の路線バスが走っておりました。

この路線バスの歴史は浅く、4年前に開通したばかりだそうです。現在市内に3路線走っていますが、プノンペン市民における利用率は約0.3%（「グローバルニュースアジア」より）と非常に低く、残念ながら、期待されていた渋滞解消への寄与には至っていない状況です。

利用者が増えない要因の一つには路線数が少ないことがあろうかと思いますが、2020年までに日本の国際協力機構（JICA）の支援で10路線まで増線・整備が行われる予定だそうです。

出発地から目的地までのドアツードア移動に慣れ親しんだカンボジア人は歩くことが苦手ですので駅到着後に目的地まで徒歩移動するバスは敬遠されがちなのもバスの利用率が低い要因だといえるでしょう。





今回の旅行で、新たな乗り物を発見いたしました。その名をパスアップ (Passap) といいます。従来からモトドップというバイクタクシーは庶民が利用する便利な交通手段でしたが、パスアップは、バイクに覆いカバーを付けて、二人掛けで座れるようにしたもので雨の時以外はドアカバーを捲り上げ風を取り入れ涼しくして走ります。燃料は通常のバイクと違いLPGを使用しています。このパスアップはインド製だそうです。(理由はわかりません)

通常のタクシーとパスアップをサポートするアプリがあり、スマホで簡単に呼び出すことができ、その接近情報がGPSを使ってスマホの地図画面に表示されます。(あと1分から中々到着しないことも時々あります)

料金も逐次にドライバーの前のあるスマホ画面に表示されますので、ボラれる心配は全くありません。

